

2022.7.3 (日) 13:30~

札幌エルプラザ4階中研修室



第101回例会

ロドヴィッチ
<プログラム> 13:30 【メッセージ】 Rodowicz 元駐日大使
13:40 【第1部】 詩劇『祖霊祭』第2部
14:30 【第2部】 希求・日本
15:15 【第3部】 希求・ポーランド

<https://www.youtube.com/playlist?list=PLBS8QnZswkMntwatdr0PBX3RBIq6N5PUZ>

第11回「午後のポエジア」では、ヤドヴィガ・ロドヴィッチ元大使の「ポーランド・アイヌ『祖霊祭』シンヌラツパ（祖先の霊への祈り）・クンネニサツ（夜明け前）」プロジェクトに協力して、『祖霊祭』ヴィリニユス篇第二部（ミツキエヴィチ作、1823、関口時正訳、未知谷、2018）を取り上げます。

詩劇 『祖霊祭』

配役▼出演者 <https://youtu.be/qNQ-BpeOShl>

コロス▼村咲紫音=下写真左1=

祭司▼村田譲=右2=

老人・声・木菟▼林家とんでん平 [ゲスト、落語家]

天使・娘[朗唱]▼氏間多伊子=右1=

亡霊▼ラファウ・ジェプカ Rafał Rzepka =左2=

大鴉・鳥たちのコロス・喪服の女▼菅原未榮=左3=

娘▼シルヴィア・オレーヤーシュ Sylwia Olejarz =右3=



日・ポ共同創造演劇
『DZIADY 祖霊祭』
2019-20より
©Maciej Zakrzewski

希求・日本

演目◆出演者 <https://youtu.be/5yw3NPxCSzw>

若松丈太郎作「ジェラゾヴァ・ヴォーラの空」「風のかたまりの夜」

「ひとのあかし」◆霜田千代暦

自作詩「アムールへ」◆菅原未榮

太宰治作「待つ」◆氏間多伊子



希求・ポーランド

演目◆出演者

http://hokkaido-poland.com/events/poesia2022_3.pdf

Julian Tuwim コリアン・トゥヴィム作、ラファウ・ジェプカ; 安藤厚訳

<https://youtu.be/etf381A4V38>

「Okulary メガネ」■Remiria Sato 佐藤レミア[ビデオ]

Julian Tuwim コリアン・トゥヴィム作、ジェプカ; 安藤厚訳

「Do prostego człowieka 平凡な人へ」■Michał Mazur ミハウ・マズル

Zuzanna Ginczanka ズザンナ・ギンチャンカ作、西成彦訳

「Non omnis moriar 私の何もかもが死ぬわけではない」■Renata Szarek レナタ・シヤレック

Maria Konopnicka マリア・コノプニツカ作、ジェプカ; 安藤厚訳

「Stefek Burczymucha お騒がせのステファン君」■ラファウ・ジェプカ

■「Dzieje hymnu polskiego ポーランド国歌の歴史」[ビデオ、日本語字幕]

https://youtu.be/_sjhc4UmAyk



ポーランド共和国下院 (Sejm) の決議により、今年以下の3つの記念の年です

マリア・コノプニツカ
生誕 180 年

Maria Konopnicka (1842～1910)は詩人・小説家・児童文学作家・ジャーナリスト・批評家。女権拡大と祖国独立のために活動しました。



1897年撮影

ユゼフ・ヴィビツキ没後 200 年

Józef Wybicki (1747～1822)は、ポーランド最後の王に仕え、その後も祖国独立のために尽くした作家、政治家。独立回復後に国歌となった「ドンブロフスキのマズルカ」の作詞者として有名。



ヴィビツキ

関連の動画「ポーランド国歌の歴史」を上映します。

ポーランドロマン主義 200 年

国民的ロマン派詩人アダム・ミツキェヴィチ Adam Mickiewicz (1798～1855)の第一詩集『バラードとロマンス』が1822年に刊行されました。



ミツキェヴィチ

【第1部】《祖霊祭 DZIADY ジャディ》とは

現在(21世紀)のリトアニアの近隣の多くの地域で、むかしから民衆がおこなってきた祖先を祀る行事です。その起源は遠く異教の時代に遡り、かつては「牡山羊の宴」と呼ばれ、祭司=詩人が儀式をとりしきっていました。

さまざまな迷信や悪習と結びついたこの慣習を根絶やしにしようと、開明的な聖職者や地主たちが努力した結果、今(19世紀はじめ)では民衆は《祖霊祭》を墓地の近くの礼拝堂や空き家で密かに祝っています。

そこでは、さまざまな食物・酒・果物などのご馳走を用意して故人の霊魂を招き寄せます。死者を酒食でもてなす風習は、古代のホメロスの時代や、北欧や東方や新世界の島々で

は今もあらゆる異教の民に共通するものです。

わが《祖霊祭》で特徴的なのは、万霊節(死者の日:11月はじめ)のころにおこなわれ、異教の儀式とキリスト教の表象とが混淆している点です。民衆は、食事や飲物や歌によって、煉獄にさ迷う霊魂を慰めることができると考えているのです。

この祭の敬虔な目的、人里離れた場所、夜という時刻での、怪奇な儀礼が私の想像力をかき立てました。

この長詩(ポエマ)は、その情景を描くフィクションですが、作品の中の儀式的歌謡、呪い、呪い歌などは、ほぼ忠実に民衆詩から採ったものです。(ミツキェヴィチの序文より:安藤厚)

【第3部】で取り上げる作家たちより

ユリアン・トゥヴィム (1894～1953)は、ロシア統治下のウッチに生まれたポーランドの詩人。ワルシャワ大学で学び、1918年にポーランドが独立を回復すると、実験詩人グループ「スカマンダー」を結成。児童文学への貢献も高く評価されています。



ズザンナ・ギンチャンカ (1917～45)は、戦間期のポーランド系ユダヤ人の詩人。生涯に出版した唯一の詩集『O centaurach』(On Centaurs, 1936)はポーランドの文壇にセンセーションを巻き起こしました。第二次世界大戦終結直前にクラクフで逮捕、処刑。



◆ 演目・出演者は変更する場合があります。

◆ 新型コロナウイルス感染拡大防止にご協力お願いします。(マスク着用、手指消毒等)



2022.7.3 (日)

13:30～ 開場 13:00

札幌エルプラザ

4階中研修室

(北8西3)

入場無料

どなたでも参加できます!



第11回 朗読会 午後のポエジア

第101回例会

<プログラム>

13:30 【ビデオメッセージ】 Rodowicz 元駐日大使

13:40 【第1部】 詩劇『祖霊祭』

14:20 【第2部】 希求・日本 (朗読ほか)

15:00 【第3部】 希求・ポーランド (朗読ほか)

下院 (Sejm) の決議により、今年は以下の3つの記念の年です。

マリア・コノプニツカ

生誕 180年

Maria Konopnicka (1842～1910) は詩人・小説家・児童文学作家・ジャーナリスト・批評家。女権拡大と祖国独立のために活動した。



1897年 撮影

ユゼフ・ヴィビツキ没後 200年

Józef Wybicki (1747～1822) は、ポーランド最後の王に仕え、その後も祖国独立のために尽くした作家、政治家。独立回復後に国歌となった「ドンブロフスキのマズルカ」の作詞者として知られる。その活動を紹介する動画の上映を予定。



ウィビツキ



ポーランドロマン主義 200年
国民的ロマン派詩人アダム・ミツキェヴィチ Adam Mickiewicz (1798～1855)の第一詩集『バラードとロマンス』が1822年に刊行された。

ミツキェヴィチ

第11回「午後のポエジア」ではヤドヴィガ・ロドヴィッチ元大使の「ポーランド・アイヌ『祖霊祭』シンヌラッパ・クンネニサツ」プロジェクトに協力して『祖霊祭』(ミツキェヴィチ作 1823)を取り上げます。

【第1部】では『祖霊祭』第二部(関口時正訳 2018)を「午後のポエジア」出演者が朗読します⇒



日・ポ共同創造演劇
『DZIADY 祖霊祭』
2019-20より
©Maciej Zakrzewski

『祖霊祭』は四部からなり、各部は独立した作品とも呼べる、成立・公刊時期の異なる複数のテキスト群の総称。その「第二部」は、最終的に天国へ行くとも地獄に落ちるとも決まっていない、未だ煉獄にあつて「浮かばれない」霊を呼び出す、民間習俗としての祖霊祭を描いている。

[出演者(配役)予定]村咲紫音(コロス)、村田讓(祭司)、林家とんでん平[ゲスト、落語家](老人・声・木菟・鳥たちのコロス)、氏間多伊子(天使)、ラファウ・ジェプカ(亡霊)、菅原未榮(大鴉)、シルヴィア・オレーヤージュ(娘)ほか

【第2・3部】では〈希求〉をテーマとします。

[演目(出演者)予定](霜田千代麿)、自作詩「アムールへ」(菅原未榮)、太宰治「待つ」(氏間多伊子)、コノプニツカ「愚痴を言うステファン君」(ラファウ・ジェプカ)ほか



午後のポエジア 2019
歌シウワジェヴェチカ

お誘いあわせの上、是非ご参加ください。(会長 安藤厚)

出演/鑑賞のお問合せ・申込み先(氏名・連絡先を→安藤へ)

080-4071-0956, hokkaidopolandca@gmail.com

◆演目・出演者は変更する場合があります。
◆新型コロナウイルス感染拡大防止にご協力をお願いします。(マスク着用、手指消毒等)

共催



協力



The year of Polish Romanticism